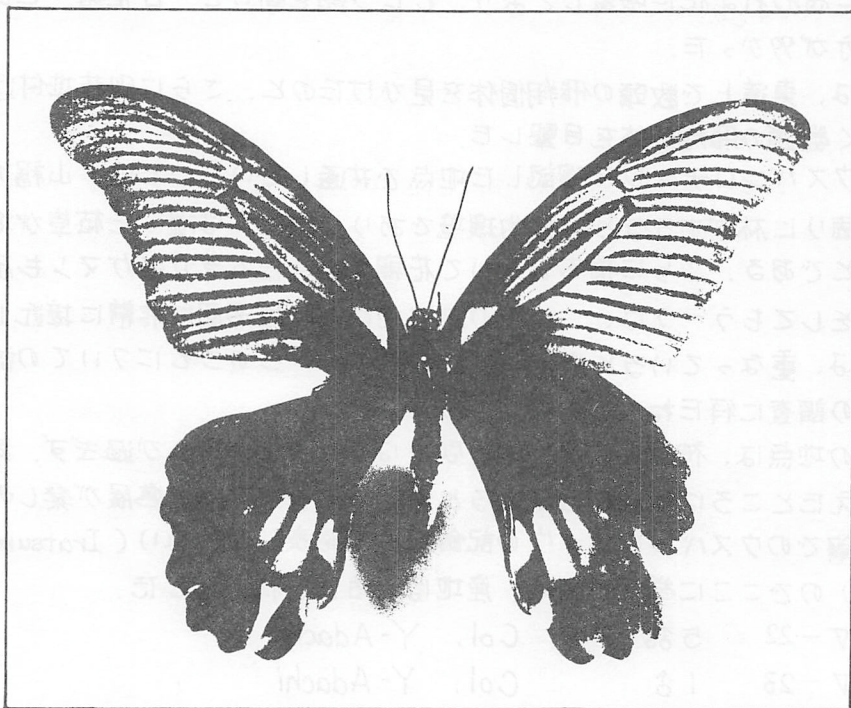


鳥取市で採集されたナガサキアゲハ

田中重樹*



鳥取市で採集されたナガサキアゲハ

1980年10月3日、鳥取市湖山町にある鳥取大学構内にて最近北上が伝えられているナガサキアゲハ (*Papilio methoni* LINNAEUS) 雌1頭を採集したので報告する。

現在、本種の土着が確認されているのは鳥取県浜田市以西(水元, 1980)であるが、近年は鳥取市内でも目撃、採集記録が相次いでおり、この動きは他の南方系の蝶の動向とともに注目すべきものである。

採集当日は快晴微風の小春日和で、午後4時頃、構内の並木に静止中の雌を発見し、採集した。採集した個体(写真)は後翅白斑の発達の悪いもので、前後翅共に多少破損していた。

ナガサキアゲハの本県での報告は、従来は迷蝶として取り扱われてきた(小林, 1968; 松岡, 1979)。ところが最近になって鳥取市内で採集記録があり(竹内, 1979)、数Kmはなれた湖山町でも、3の目撃例(阿部, 1979)が続

* 現住所 〒681 鳥取県岩見郡岩美町

鳥取市で採集されたナガサキアゲハ

いた。

本年度に入って、6月上旬に1匹を目撃したのを皮切りに3例ばかりの目撃があり、9月中旬以後その数は目に見えて増加し、7月時には一度に3～4頭がクサギで吸蜜するのさえ見られるようになった。10月に入ってやっと採集するに至ったわけである。

また本年度は島根県東部（淀江；岡，1980）、鳥取県中部（日本海新聞，1980）にも9月以後に多数目撃されているため、これは連続的な発生と考えられる。現在までの報告からは鳥取市より東の地域、あるいは山間部では見られていないことから、おそらく鳥取市がその東限になるのではないかとと思われる。

表は鳥取市の最近2年間の1、2月の気温と浜田市、鳥取市の平年値を比較したものである。これより暖冬といわれた1979年は浜田市とほぼ等しい状況であり、明らかに越冬可能な温度であったが、1980年冬は鳥取の平年並みであることがわかる。ここで注目したのは、1980年冬は平年並みにもどったにもかかわらず、その春から秋にかけて成虫が出現したということである。つまり平年並みであれば鳥取の冬はナガサキアゲハにとって越冬可能であるといえる。今後ナガサキアゲハが鳥取（あるいはその周辺）に土着することも考えられる。とにかくデータが少ないので詳しく述べられないが、今年の様子を追ってみていと思う。

表. 最近2年間における鳥取の気温と鳥取、浜田の平年値

		January			February		
		Mean	Max.	Min.	Mean	Max.	Min.
TOTTORI (1979)	Temp. (°C)	5.5	10.2	1.4	6.3	10.5	2.4
	0°C>(day)*			5			5
TOTTORI (1980)	Temp. (°C)	3.4	6.7	0.3	2.8	6.3	-0.5
	0°C>(day)			17			14
TOTTORI (Mean)**	Temp. (°C)	3.7	7.1	0.5	3.8	7.6	0.4
	0°C>(day)			12			13
HAMADA (Mean)	Temp. (°C)	5.5	8.5	2.3	5.4	8.7	2.1
	0°C>(day)			5			6

*, 最低気温0°C以下の日数

**, 最近30年間の平均気温

田中 重樹

参考文献

水元満夫, 1980. 浜田市のナガサキアゲハ(1). すかしは, 13:27-28

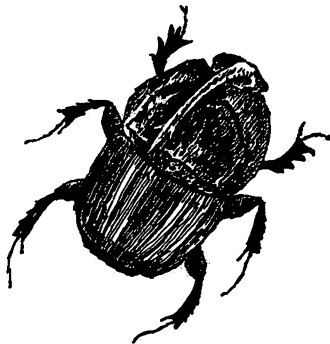
小林一彦, 1968. 鳥取県産蝶類略目録. 鳥取県立科学博物館, 鳥取.

松岡喜え, 1979. 大山の蝶. 今井書店, 米子.

竹内 亮, 1980. 鳥取市及びその周辺の蝶類分布に関する知見. すかしは, 13:
23-24

阿部竜三, 1979. 湖山神社でナガサキアゲハを目撃. 因幡のむし, 15:

淀江賢一郎; 岡義人, 1980. ナガサキアゲハの採集. 目撃例. すかしは, 14:12



IRATSUME 第6号の原稿を募集します!!

IRATSUME 第6号は, 来春(1982年4月)刊行予定です. 今シーズンの成果をどんどん発表して下さい. まとまった報告は勿論, 短報も歓迎します. 5号の遅れた経験を踏まえ, メ切は12月末日とします. 原稿の送り先は 〒567 茨木市総持寺2丁目11-4 谷角素彦まで.